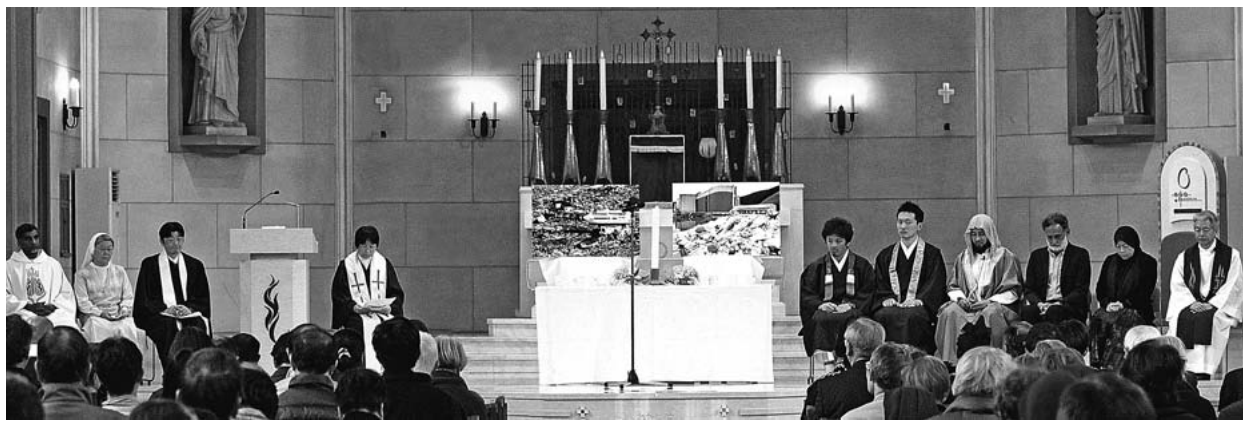
名古屋教区ニュース

第390号
2019年 5月
〒461－0004
名古屋市東区葵２丁目６－35
カトリック名古屋教区広報委員会
「教区ニュース」編集部
電話（052）935－2223
FAX（052）935－2254
印刷所　株式会社 荒川印刷
毎月第1日曜日発行

宗教・宗派を超えて祈る
東日本大震災・福島原発事故から8年
―現地の人々の平安につながりますように―



東日本大震災・福島原発事故から8年たった3月11日、「犠牲者追悼・復興祈願の日～宗教・宗派を超えてつなぐ祈りの手～の集い」が、カテドラル布池教会大聖堂で行われた。主催はカトリック名古屋教区、共催は名古屋キリスト教協議会。カトリックの信者だけでなく、宗教・宗派を超えて約250人が集まり、祈りを捧げた。

松浦悟郎司教は開会あいさつに立ち、「8年経っても被災地では、まだまだ生活の苦しさがあり、心の傷が消えないままです。私たちのこの祈りの集いが、現地の人々の平安につながりますようにひと時を一緒に過ごしたいと思う」と述べた。

NPO法人チェルノブイリ救援・中部理事の神野（じんの）英樹さんが菜の花栽培による「南相馬の農地再生」と題して講演を行った。神野さんは29年にわたってチェルノブイリの支援活動を行ってきて、福島第一原発事故による被災地支援を8年前に開始した。自宅は愛知県だが、拠点を福島県相馬市に移し常駐している。

神野さんはチェルノブイリ支援の経験を生かして行っている、農地再生のための「菜の花プロジェクト」について話した。ナタネ栽培の繰り返しによって、農地は徐々に放射能汚染が薄まっていくという。神野さんはこのプロジェクトから生まれたナタネ油の「油菜ちゃん」を紹介した。放射能汚染の農地でナタネ、ヒマワリ、大豆などを栽培すると、葉、茎、油粕にはセシウムが残るが、油には全く移行しないことが分かったため、南相馬で収穫したナタネから油を製造することにしたという。「油菜ちゃん」という名前は相馬農業高校の生徒たちが命名した。神野さんは、最後に、「これから、油菜ちゃん誕生物語の語り部になっていただいて、福島の皆さんの支援をしていただけたら」と呼びかけた。

地震発生時間前、諸宗教の代表者が祭壇中央に置かれた2枚の被災地の写真の前にロウソクを奉献した。写真は、多くの子どもたちが犠牲になった石巻市立大川小学校の校舎と、津波直後の被災地の写真である。そして地震が発生した14時46分、カテドラルの鐘が鳴り響き、全員で1分間の黙とうをささげた。

つぎに、日本基督教団の島しづ子牧師がマタイ福音書6章27節～33節を朗読し、「神の国と神の義」について「神の国は、私たちが助け合い、分かち合う食卓にある。特に今日は、生きがたい思いをしておられる方々と一緒に歩き続ける思いを打ち立てたいと思う」と説教した。

「宗教・宗派を超えてつなぐ祈り」では、真宗大谷派、イスラム教、日本バプテスト教会、カトリック司祭、シスターの各代表者が、各宗派の儀式に従って祈りを捧げた。

南山大学聖歌隊スカラ・カントールムが聖歌を歌う中、参列者全員が献花をした。閉会の挨拶で松浦司教は参列者全員に感謝を述べ、参列したすべての宗教者を祭壇上に促した。熱い拍手が沸き起こり、その人たちに皆が感謝を表した。

司祭叙階　修道誓願　奉献生活誓願　金・銀祝
神の呼びかけに答え歩んだ50年・25年
「おかげさまで」と神に感謝

布池司教座聖堂で司祭叙階、修道者誓願、奉献生活者誓願の金・銀祝が3月21日に行われ、松浦悟郎司教、野村純一名誉司教と約20人の司祭の司式でミサが捧げられた。

ミサのはじめに松浦司教は、「今日は名古屋教区司教座献堂記念日であり、この日に叙階、誓願の金銀祝を行うことは、教会にとって意味深いことです。長い間、司祭、修道生活を送ってこられた方々に敬い、私たち一人ひとりも神様から与えられている招きを受けていくことができるように、またその恵みに今日、一緒に感謝しましょう」と語った。

説教する及川正神父

ミサ中の説教は、金祝を迎えた及川正神父（神言会）が行い、この日を迎えるまで支えてくれた多くの人々へ感謝の言葉と共に、次のように語った。

「私たち人間は、神様の創造の業のおかげで存在させられている。そのことを神様へ、おかげさまで、と感謝し、個々にいただいている持ち味を生かしながら神様へ恩返しをしていく。それが世の塩となって使命を全うさせていくことだと思う」

ミサの終わりに金銀祝を迎えた方々は、一人ひとり松浦司教から記念品を受け取り、一言ずつ感謝の言葉を述べて、会衆から温かい拍手をおくられた。

会場を地下ホールに移して行われた祝賀会では、久しぶりに会う人々との懐かしい語らいやお祝いの言葉で終始、喜びで賑わっていた。最後に全員で「キリストの平和」を手話付きで歌い、感謝のうちに閉会した。

今年金銀祝を迎えた方々をご紹介します。

司祭叙階50年
及川　正神父
（神言修道会）

ハイジック　ジェームス神父　（神言修道会）

修道者、奉献生活者誓願50年
Sr.木全　一美
（聖霊奉侍布教修道会）
Sr.尾崎　晴美
（聖霊奉侍布教修道会）
Sr.寺地　和子
（援助修道会）
Ms.井上　敏子
（聖マリア在俗会）
Ms.大宮　絹子
（聖マリア在俗会）
Ms.加治木　スズ子
（聖マリア在俗会）
Ms.田中　鈴子
（聖マリア在俗会）
Ms.高橋　昌子
（聖マリア在俗会）
Ms.山田　恭子
（聖マリア在俗会）

誓願25年
Sr.アマリア　アンナ　マリア　マルゲレッタ
（聖霊奉侍布教修道会）
Sr.モンテーロ　ヴィーナ
（幼き聖マリア修道会）
Sr.アヌシカ
（神の愛の宣教者会）

5月12日　世界召命祈願の日

神は、すべての人が誠実に自分の生涯を送るように招いています。ある人は、神と人とに仕える司祭、修道者となるように招かれています。神の招きは、自分に対する神の望みを祈りつつ探していくことが大切です。

5月26日　世界広報の日・献金

福音宣教は私たちの使命です。「世界広報の日」は新聞、インターネットなどの広報媒体を用いて行う宣教について、教会全体で考え、反省し、祈り、献金をささげる日です。

教区ホームページ
福音のひびき

5月の説教者

5日　復活節第3主日
山野　聖嗣
（港教会）

12日　復活節第4主日
鄭　有喆
（美濃加茂教会）

19日　復活節第5主日
浅井　太郎
（一宮教会）

26日　復活節第6主日
平田　豊彦
（布池教会）

子どもとともにささげる
名古屋教区
インターナショナルミサ
International Mass with Children

テーマ　「それぞれ　いろいろ　だから…」
Sorezore Iroiro dakara …
日　時　5月19日（日）14：00～
会　場　カトリック南山教会
Mass at Catholic Nanzan Church
地下鉄鶴舞線「いりなか」駅
下車徒歩5分
ミ　サ　司式　ミカエル松浦悟郎司教
ミサ後持ち寄りパーティー
主　催　名古屋教区難民移住移動者委員会
共　催　教会学校教師会
問合せ　☎052-953-9480

カトリック神言修道会、司祭叙階式

２人の新司祭誕生

カトリック神言修道会の司祭叙階式が３月23日、南山教会聖堂で行われ、満席の参列者が見守る中、二人の新司祭が誕生した。サムエル荒田啓示新司祭とヨセフ　グエン・タン・ヒ新司祭である。ミサは松浦悟郎司教が主司式をし、神言神学院院長レジモン・ヴァルギース神父ほか約100人の司祭が共同司式をした。

松浦司教は二人の受階者に司祭の任務について次のように諭した。

「司祭に叙階されるのは何という恵みだろうか。司祭の手を通してキリストの救いに参与でき、キリストのもたらす救いのわざがこの地上で実現していくのを目の当たりにしながら生涯を送ることができるのだから。

私たち司祭は特別な人間ではなく、弱さを持ち、時に転ぶ。この弱い私にもかかわらず神様が目を留めて、私のために一緒に働いてほしいと呼びかけてくださった。司祭は司祭の仕事ができるかどうかではない。いつか病気をしたり、年をとったりして仕事ができなくなるかもしれない。しかし、神への深い信頼と喜びと感謝を持ちながら生涯を歩む。最後まで司祭であり続けるという生き方こそが、神様があなたを通して救いを実現しようとされていることだ」

「司祭の道の出発に当たり、どうぞ目を開けてこの世を見てください。どれだけ多くの人たちが本当の命、本当の道を求めていることか。その中に争いが起こり、苦しみが起こり、対立が起こる。人々に起こる出来事を自分の中に起こっていることとして受け留め、深い共感の心、憐れみの心で祈り、自分にできる託された役割を果たしていってほしい。また、信徒一人ひとりの中にある神のわざをなそうとするカリスマを受けとめ、それを励まし、神の国のためにそのカリスマと一緒に働く。これは、司祭の大切な役割です」

「深い祈りの中でこの道を歩んでください。二人の中に始められた神のわざを神自身が完成してくださることを信じ、どうぞ生涯をかけてキリストへの奉献の道を歩んでください」

諸聖人の連願、聖別の祈りと接手、パテナ（聖皿）とカリス（聖杯）の授与の後、二人は司祭団に迎えられた。

新司祭の二人は挨拶で、すべての人たちへの感謝と、自分の召命をしっかりと果たしていきたいと決意を表した。

ベトナム人共同体による混声合唱団が、ベトナムの聖歌「Tan Tung Hong An」（神の恵みに感謝）などを力強く美しく合唱し、賛美と感謝をささげた。

左から、サムエル荒田啓示神父、松浦司教、ヨセフ　グエン・タン・ヒ神父

２０１９年金・銀祝を迎えられた方からメッセージをいただきました。紙面の関係で一部割愛して紹介します。

司祭金祝

及川　正　神父
（神言修道会）

もし私にどなたかがどうしても「私の生き方」を尋ねられましたら、誠に恥ずかしいのですが、次のように申し上げます。〝私はこれまで歩んできた私の道と私の姿は、そして今の姿は、人前に出せるものでは決してありません。しかしキリストに出会って以来、「神のみ旨を求めて」が　私の人生の行脚でした。そして、残り少ない人生も、そのように生きていきたいと思います〟と。

金　祝

シスター　木全一美
（聖霊奉侍布教修道女会）

若い頃は宣教に対する熱意が外向きでした。年齢とともに主との内的一致を強く求めるようになりました。み言葉の意味がよく解らないとき、主イエスご自身が教えてくださることがありました。もちろん思いの中でとか、聖書を読んでいるときに。私は成人信者で、修道生活50年の恵みに召され、神と皆様に感謝申し上げます。

金　祝

シスター　尾崎晴美
（聖霊奉侍布教修道女会）

私は、今病んでいます。たくさんの人に支えられて、私の修道名ミチス（柔和）の道を歩んでおります。共に生活している姉妹たち、ケアをして下さる方々、心をこめて治療して下さる先生、そして神さまの愛に支えられて、この柔和の道を全うしようと生きております。誓願50周年を祝っていただき感謝いたします。

金　祝

シスター　寺地和子
（援助修道会）

心からの感謝をこめて三つの「ありがとう」を申し上げます。

・私はあつい仏教徒の家に生まれましたが、この道を歩ませてくれた両親と家族にありがとう。

・これまでに出会った数えきれない人々、私を支え、導いて下さってありがとう。

・世界に広がる援助修道会の姉妹たちにありがとう。

金　祝

加治木スズ子
（聖マリア在俗会）

長い間、幼児教育の道を歩んで来ました。その間、様々な出来事の中で、苦しみ、悩み、落ち込んだりしました。そんな時、「マリアはこれらの出来事をすべて心に納めて思いめぐらした」（ルカ２・19）のみ言葉が大きな力と支えになりました。これからも、いただいたお恵みに感謝し、喜びをもって在俗奉献の道を神様のお導きのもとに歩み続けたいと願っております。

金　祝

井上敏子
（聖マリア在俗会）

「あなたは自分だけ天国に行けばいいのですか」と受洗後３年頃、一人の神父様から掛けられた言葉が心に響きました。その言葉は徐々に私の内に育てられ、在俗奉献の会、聖マリア在俗会へ導かれました。頂いた「召命と使命」を祈り思い巡らしつつ、自分の弱さに沈むときには、「秘跡」と「み言葉」に頼り、会共同体に支えられ、関わっていただいた方々からの愛とゆるしなどにより、今日の日を迎えられました。

金　祝

山田恭子
（聖マリア在俗会）

ある時、教会に行ってみない？と誘われ、友人と二人で行ってみると４人の女性が、それぞれの仕事をしながら、楽しそうに生活をしていました。その中の一人が勉強会をしていて、私もこのような仕事がしてみたいと思い勉強会に出て洗礼を受けました。キリストを伝えるとは、言葉だけではなく、日々の行い、生き方だと思います。今から何年生き続けるのかわかりませんが、キリストの心を心として、生きたいと思います。

銀　祝

シスター　アマリア　アンナ　マリア　マルゲレッタ
（聖霊奉侍布教修道女会）

日本に派遣されて、宣教生活を生きていく中で、実にいろいろな恐れがあります。神様が、「恐れないで。私がいつもそばにいる。あなたを理解していますよ」と言われることを度々感じています。私は一人ではありません。私を探し、名を呼んで下さる神様がいるのです。神様との親しき交わりと皆様との出会いによって、いつの間にか自分が神様に満たされていることを知り、25年が経ちました。

銀　祝

シスター　モンテーロ　ヴィーナ
（幼き聖マリア修道会）

〝信じるものには、何でもできる〟（マルコ９・23）。終生誓願の日、ある姉妹から頂いたみ言葉です。今も、机の上に置いてありますので、特に〝これは私には無理だな…と思う時〟に目に留まり、前へ進む力をもらいます。私は神様から、人々のために自分の人生を捧げる使命をいただきました。若さと強さで最善を主に尽くすように、日々歩む努力をしています。

銀　祝

シスター　アヌシカ
（神の愛の宣教者会）

マリア様のご像を２週間、家庭で預かっていただき、家族で毎日ロザリオを唱えるよう勧める中で、私たちはマリア様の働きによる奇跡を見ます。マザーの言葉「共に祈る家族は共に留まる」を現実として目のあたりにすることができました。長年の修道生活を通して、私個人のマリア様への信心と愛、そしてマリア様を通して多くの人々にイエス様を伝えたいという熱意は深まって参りました。

受刑者の回復と社会復帰支援のための講演会

人生を変える出会いの力

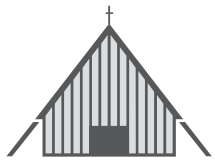
～闇から光へ～

受刑者の社会復帰と犯罪防止活動を行っているＮＰＯ法人マザーハウス理事長、五十嵐弘志さんの講演会が３月３日カトリック平針教会で行われた。講演者の五十嵐さん自身も元受刑者で、多くの受刑者が刑期を終えて社会へ出た時の偏見、差別による苦難、また身寄りがないため職業になかなか就けない等の理由で犯罪を繰り返し、また刑務所へ戻ってしまう現状を語った。

五十嵐さんは服役中に、ある日系ブラジル人との出会いから聖書を知り、キリストとの劇的な出会いがあった。涙を流しながら貪り食うように聖書を読んだその頃のことを、熱く語った。そして服役中から関わりのあった司教、司祭を始め、多くの人々の導きと助けによって、出所後まもなく尊敬する聖マザーテレサの名を頂いて「マザーハウス」を立ち上げることが出来た。ここに来るまでに多くの困難、苦しみにぶつかってきたが、今でもその状況は変わらない。時には教会の中にでさえ、壁を感じることがある。しかし人々との出会いを通してその都度思わぬ道が開け、進むことが出来た。だから五十嵐さんは勇気を持って一歩踏み出せば、そこには前向きな出会いがあると、「人との出会い」を強調する。五十嵐さんの目は、真っ直ぐキリストだけを見つめ、時折語る聖書の言葉は、自身の体からほとばしり出るように感じられた。

マザーハウスでは、受刑者との文通、出所してきた人たちの住まいの援助、仕事としてコーヒーの販売、引っ越し等の便利屋、など様々な活動を行っている。詳しく知りたい方、協力できる方は下記まで是非ご連絡ください。

特定非営利活動法人
マザーハウス
理事長　五十嵐　弘志
〒130－0024　東京都墨田区菊川　1－16－17－102
ＴＥＬ．０３－６６５９－５２６０
ＦＡＸ．０３－６６５９－５２７０
代表携帯　０８０－３７２９－００６７
ホームページ http://www.motherhouse-jp.org



信仰をつむぎ、信仰をつなぐ

WYD参加者の体験レポート

ワールドユースデイ　パナマ大会

名古屋教区参加者による体験レポート②

ワールドユースデイ（WYD）が1月にパナマで行われました。今回は教区ニュース4月号に引き続き、名古屋教区から参加した3人の青年たちのレポートを紹介します。

教皇歓迎式典の様子

『世界の青年と信仰』

川西 里奈（南山教会）

WYDに参加し、この体験から何を得ただろうかと今も振り返ることがあります。そんな中で、いま確信している三つの大きな気づきがあります。

一つ目は「信仰って良いものだ」と心から思えるようになったことです。参加を決めた当時私には、熱い思いや決意といったものはなく、一人として知り合いもいないという状況で、団体生活に馴染めるだろうか、行って良かったと思えるのだろうか、と大きな不安を抱えていました。案の定、参加者は年齢や職業、性格、何もかもがバラバラで、実際に打ち解けたのは後半になってからだったかと思います。しかし、毎日のミサで祈りを捧げるとき、バラバラだと思っていた世界中の青年たちが、手を合わせ同じ方向を向いている姿を目にします。すると不安は消え去り、私たちは一つの大きな愛なのだ、と実感するのでした。すべての人間と分かり合うことができなくても、信じるものが一つであるという事実は、とても大きな希望となりました。

二つ目の気づきは「若者には世界を変える力がある」ということです。ある日の分かち合いで、日常生活での対人関係の悩みを告白した仲間がいました。理不尽な人物に悩んでいるという話を聞き「それはひどい！」とただ同調していたのですが、別の一人が「じゃあ、その人のためにお祈りしよう」と言いました。グループの空気は一変し、全員が温かな気持ちを持つことができました。私はこのとき、私よりも一回り近く年下の青年が、理不尽な出来事を前に何気なく言ったその一言に圧倒され、それ以上何も言うことができませんでした。人に心を動かされるということに年齢は関係ないのかもしれませんが、若いからこその、純粋な思いや発言、きらきらとした眼差しは、大人たちに真っ直ぐに突き刺さるはずだと感じました。現に自分にとっては、自己を顧みる大きなきっかけとなり、今でも忘れられない出来事となっています。

三つ目の気づきは「自分の使命」についてです。これまで日常生活において、信仰について躊躇（ちゅうちょ）なく話せる機会は少なかったと思います。ですがワールドユースデーに参加して世界の青年たちとともに祈る中で、一番強く思ったことは「もっと信仰に誇りを持って良いのだ」ということでした。そして帰国後少しずつですが、周りの人々に教会へ行っていることを伝え、私自身やキリスト教について興味を持ってもらえることも増えてきました。このことは私にとって大きな喜びとなっています。私はまだ、自分の使命が何かはっきりとはわかりません。ですが、自分の信仰に自信を持って生きていれば、いつの日か神の呼びかけに迷わず「はい」と答えられる人間になれるのだと思います。今の自分にとってはこれが何よりも大事なことと感じています。

これらの気づきが、決して私一人の中で終わるものではなく、もっと多くの意味を持つことになるのだ、ということを心に置き日々祈っていきたいと思います。

日本巡礼団だけでの十字架の道行き

＊　＊　＊

『私は主のはしためです。お言葉どおりこの身になりますように』

曽根 優希（旭川大町教会（名古屋在住））

土曜日　会場でのグループでの祈り

私がWYDに参加した動機は、今の自分に何ができるのか、今、自分がしていることに意味はあるのか、自分は誰かの役に立てているのか。そんなことをモヤモヤと考えていた頃に、WYDの話が出てきて、「私、行かなきゃ！」と直感的に思ったのを覚えています。

そんな思いの中、本大会でとても印象に残っているのは、教皇歓迎式典が行われた木曜日です。昼過ぎから屋外会場の入り口前に並んでいたのですが、10万人以上の人が一斉に集まっており、高温多湿の中、4時間近くもすし詰め状態。そんな中、グループの皆で少しの水やポカリを分け合って、押し潰されると風が通らず余計に暑くなってしまうため、自分が盾となりスペースを確保してくれる人、目印に掲げていた国旗を広げて日陰を作ってくれる人、はぐれた人がいないか常に確認してくれる人…

そんな光景を目にして、私はその日の午前中にしたカテケージスのことを思い出しました。そのテーマが『私は主のはしためです』でした。〝主のはしため＝主の奉仕者〟というワードが大きなテーマとなり、神様にみ心を捧げることが奉仕だといった内容で、それをもとに分かち合いをしたばかりでした。皆でパパ様の所まで辿り着きたいと、皆が誰かのために奉仕をし、み心を捧げている時間でした。とても楽ではない道のりでしたが、それを皆で乗り越えてパパ様にお会いできたことは、何にも代え難いものでした。

その他の本大会のプログラムも、どれもとても濃い、温かな時間を過ごすことができました。同じ神様を通じて出会った人たちは誰もが温かくて、たくさんの愛を感じたWYDだったと感じています。現地で出会った人だけではなく、たくさんのお祈りをいただいた教区や小教区の信者の皆さんをはじめ、職場や友人、そしてもちろん家族にも同じ思いを持ちました。その愛もまた、神様が私の周りの人たちを遣わして、神様からの愛を与えてもらっているんだとも感じました。それならば私も神様に遣わされて、私の周りにいる誰かに神様の愛を伝えられる人になっていきたいと思いました。まさに『私は主のはしためです。お言葉どおりこの身になりますように』のテーマそのものでした。

パナマから帰国して、出発前と変わらない生活がまたはじまりました。ただひとつ行く前と違うことといえば、至るところに愛を感じながら生活をしているということ。日本という恵まれすぎた環境の中で、本質を見極めながら人生を豊かにしていくことは逆に難しいと思いますが、そんな中でも愛を感じることを忘れず、またそれを伝えていくことを忘れずに、日々過ごしていくことを心に留め、祈っていきたいと思います。

＊　＊　＊

『具体的な1歩を踏み出すために』

永栄 恵太（富山教会）

初めての海外で不安や、自分の将来への恐れが増す中で、パナマでの新たな出会いと体験が、自分自身をどのように変化させるのかという期待を胸にWYDに行かせていただきました。そこで得た、喜び、恵み、愛を通して二つのことを分かち合いたいと思います。

一つ目は「わたしは主のはしためです。お言葉どおり、この身になりますように」というマリアさまの言葉が、神様への愛に満ちたとても勇気のある言葉であることを知りました。マリア自身、不安や恐れがあったと思います。その思いも全て主に捧げて身を委ねたからこそ、この言葉が言えたのだと思います。

この「はい」と答えたマリアの勇気から、すぐに「はい」と答えることのできない自分の弱さに気づくことができました。自分一人では到底できないようなこと、不安や恐れからすぐ逃げだす自分の弱さにです。この弱さから気づくこともあります。それは、だからこそ主がともにいてくださることを。マリアもまた、だからこそ「はい」と答えることができたのではないかということです。主は一人ひとりに必要な恵みを贈ってくださっているということは、この数年、教区の青年との関わりの中で強く感じた想いです。教会との繋がり、そこで出会うことのできた、たくさんの友人、大切な兄弟姉妹との出会いが、私を勇気づけてくれる神様からの愛の絆だと強く感じることができました。

二つ目は、山野内司教様がいわれた十字架の道行きのアドバイスの中で「十字架の道行きは人生の鏡」、「14留あると必ず今の自分に当てはまる箇所がある」という言葉を受け臨んだときのことです。十字架を担われて歩き続けるイエスさまの姿、倒れても倒れても、再び立ち上がって歩き続けるその姿に、私は気づくことができました。何度倒れても、また立ち上がって歩き出すことで、イエスさまと一緒に歩いているんだという思いをすごく感じることができました。

富山の青年たちと

このとき、私が10年前に神さまのことをもっと知りたい、学びたいという強い思いから、長崎の高校へ行き、様々な出会いと経験を得たときの気持ちをあらためて思い起こすことができました。WYDを通して、これまで歩んできたカトリックの信仰、キリストの愛、マリアの勇気、教会家族との関わり、大切な友人たちとの出会い、愛する兄弟姉妹との日々、全てが神様から私への贈りもの。喜びであり、恵みであり、愛に、感謝しています。

WYDの旅は終わっても、私たちの生活は続きます。WYDはゴールではなく転換期。自分が進む道への新たな気づきを得て、どのように歩み出すのか、その具体的な一歩を踏み出すために、マリアのように「はい」と答える勇気と、イエスがともに歩んでくださっていることを感じることができるように、毎日の祈りを通して願っていきたいと思います。

AMARE GESÙ E MARIA

第14回ホスピス聖霊講演会

「ホスピス・緩和ケアの歩みと期待される大きな役割―地域をつなぐ要として―」

カトリック社会事業室

第14回ホスピス聖霊講演会が聖霊病院 聖霊ホールで2月23日に開催された。講師に公立学校共済組合東海中央病院名誉院長、渡辺正さんを迎え、ホスピス・緩和ケアの歴史、そして現在、展望をご自身の経験を通して語っていただいた。参加者は、そのやさしさ、温かさ、親しみやすい人柄に共感し、多くの質問をしたり感想を述べていた。

自らホスピスの原点の地イギリスへ。シシリー・ソンダース氏とも話し合った後、日本でホスピス・緩和ケア病棟の設立をめざし、藤田保健衛生大学、七栗記念病院等に尽力されてきた。病院で医療を受ける、緩和ケアを受けることができる時代である。家族の中で、介護される・看取られるという2人称から、3人称に変わり、医療者が中心となった日本のケアである。イギリスに渡り、研修をしていた時から、在宅ホスピスでは訪問看護師が患者の苦痛緩和に使用する薬液量を医師に示唆し、処方を得、持参するという状況であった。日本でも地域社会におかれているがん患者の状況、病院の機能分化、療養場所の選択困難なども含め、数年前から在宅ケア・在宅ホスピスが活用されてきている。2018年3月から進められている地域緩和デイケアがある。患者である前に人としての視点を最も重視した在宅療養の支援である。

渡辺さんは、「わたしは患者さんと『病の物語』を語りますが、ボランティアさんたちは違うのです。何気ない葉っぱや花から話題が大きくなり、その人と『ひととしての物語』を話されているのです」また「傍らに寄り添い、より高いものへの祈りをもったケアをする謙虚な姿勢、畏敬の念が大切、必要」と話された。

第32回四旬節黙想会

～障害をもつ人々と共に

3月30日(土)、31日(日)に名古屋教区カトリック障害者連絡会（カ障連）とカリタス福祉委員会は南山学園研修センターで恒例の黙想会を開き、日帰り参加者も含め約50人が集った。指導司祭はクラレチアン宣教会(緑が丘、鳴海教会）のマルセリーノ神父。

30日には黙想会に先立ち、カ障連総会が開かれた。活動や会計に纏わる議事が進行され、3年1期の役員任期に伴い役員交代。会長は9月29日金沢教会で『障害者のつどい』を開催の予定であることと皆の参加を呼び掛けた。

3時から黙想会『いやしとさとり』をテーマに講話。導入として大きなスクリーンに映し出された宇宙の映像を暫く鑑賞。続いて「あなたは今どこにいますか?」との思いがけない質問に引きつけられ、神父の話に耳を傾けた。

『いやし』は壊れたものを直すことであり、神と人（私）との間の壊れた関係の修復が『いやし』である。いやされた者は「神の子」として成長していく。これが人間としての存在の目的であると説かれた。

講話は第1日目が人間の成長の節目節目にどのようなことを意識するか。人は誰でも自分の中に「種」をいただいている。その種は中からの力（神の恵み）によって成長していくこと。2日目は「神の恵み」に気づき、意識することによって人としての（霊的）成長が始まること。神に心を向け、ありのままの自分と神との心の交流。これが祈りであること。神との交わりを深めるとき、一人一人の存在の豊かさに気づき意識する。他の人の存在のお陰で自分が在ることを知り、拘りのない深い心で、ありのままを受け入れて行く。心の中に湧いてくるエネルギー（恵み）によって、「神の子」として生かされていくことを意識する。これこそが『さとり』であろう。これは聖霊の働き、神の恵みによるとエフェソの信徒への手紙などが引用された。

ロザリオの祈りに加え、夜にはテゼの祈り、十字架の道行、ゆるしの秘跡には手話による聴罪司祭も。感謝のミサでは手話による司式司祭を含め3名、侍者朗読奉納も障害を持つ人が担い、皆が一つであることを味わい、喜びのうちに再会を誓い家路に着いた。

《世界祈祷日の集い》

「いらっしゃい、準備はすっかり出来ています。」

2019年世界祈祷日が3月1日に日本福音ルーテル名古屋めぐみ教会で開かれた。世界祈祷日は毎年3月の初金曜日に6教派の持ち回りで行われ、今年はルーテル教会が担当した。参加者は198人。

今年のテーマ国は、スロベニアで、テーマは「いらっしゃい、準備はすっかり出来ています。」（ルカ14章15～24節）。

「このみ言葉は厳しいメッセージを投げかけています」とめぐみ教会の朝比奈晴郎牧師は語る。前もって招待された人々は理由をつけて断り、誰一人来ようとしません。そこで貧しい人々や体の不自由な人々を片っ端から連れてきて、祝宴を一杯にするように命令を出したという「大宴会の例え」を話した。

これは「忙しい」を言い訳にして祈りや教会生活をおろそかにしがちな私たちに向けられた神様の言葉です。

心に響くのは「無理にでも、人々を連れてきて」という部分です。「教会にあらゆる人々を招き入れなさい、という意味にも解釈できるでしょう」。

神様は「私はふさわしくないと断る人々を無理にでも連れてくる」ことをお望みなのです。今も「準備はできています」と語りかけてくださいます。神様の思いにまずあなた自身が応えて、感謝とともに落ち着いて座りましょう。それができて初めて、招かれてくる誰かに「どうぞここに来て一緒に座りましょう」と微笑みかけることができるのです。

今日この時、新しい神の民の絆が生まれたことを喜び、祈りましょう。主にある結びつきによって捧げられる祈りは、神様とキリスト者全員の喜びなのです。

スロベニアで、この日本で、そして世界のすべての国と地域で、神様のお招きになるすべての人が、主イエスの喜びの祝宴にあずかれますように、そして私たち一人一人に何ができるか示されますよう、世界の祈りとして祈ってまいりましょう」と話した。来年の世界祈祷日はカトリック教会が担当となっている。

名古屋オルガンの秋

オルガン音楽で辿る教会の暦

日　時　6月2日（日）15：30～

テーマ　復活節

～フルート・ハープと共に復活の喜びを～

J.S.バッハ　キリストは復活したBWV627

J.S.バッハ　ソナタBWV1027、フルートとオルガンの為の組曲

M.グランジャニー　アリア　ハープとオルガン　他

演　奏　小出信也（Fl）近藤薫（Harp）、吉田文（Org）

日　時　6月23日（日）15：30～

テーマ　キリストの聖体　グレゴリオ聖歌とオルガン

N.d.グリニー　天のことばが示され

S.カルク＝エラート　シオンよ救い主を讃えよ　他

会　場　カトリック五反城教会　名古屋市中村区二瀬町27

交　通　地下鉄東山線「岩塚」駅2番出口徒歩5分

入場料　無料、任意のご寄付をお願いします。

名古屋グレゴリオ聖歌を歌う会

吉田文（Org）

主　催　名古屋オルガンの秋実行委員会

問合せ　二宮音楽事務所　☎052-505-0151

HP：http://organaki.exblog.jp

がんばっぺし東北！！いったれ東北！！

東日本大震災応援ツアー2019

カリタス大船渡ベース ⇒ カリタス南三陸ベース

どなたでも参加できます。2泊3日（全6回）

第２回　５月14日（火）～ 16日（木）

第３回　６月11日（火）～ 13日（木）

第４回　７月９日（火）～ 11日（木）

第５回　９月17日（火）～ 19日（木）

第６回　10月15日（火）～ 17日（木）

受付締切　各回ともツアー初日の２週間前

参加費　1名につき5,000円。（旅行保険代＋滞在経費３日分）

行　程　チラシをご覧ください。

問合せ　カリタス南三陸ベース　☎0220-23-9231

申込み　カリタス大船渡ベース　地ノ森いこいの家

e-mail：ofunatobase@gmail.com　☎/Fax 0192-47-4737

詳細は各小教区に配布済のチラシをご覧ください。

名古屋教区殉教者祭　金沢・卯辰山

日　時　4月28日（日）　13：30～

場　所　金沢・卯辰山

主司式　ミカエル松浦悟郎司教

連　絡　・今年は名古屋からの巡礼バスはありません。各自で殉教者ミサにご参列ください。

・雨天の場合は金沢教会で殉教者ミサが行われます。

「青年のための聖書の学び」5月19日（日）

テーマ　荒れ野と街（マルコ1章）

対　象　青年男女（18～32歳）
時　間　14：00～19：50（高校生は16：30まで）
1：30～玄関を開けます　聖書「学び」
み言葉で感じたことの分かち合い、おやつ
CHRISTUS VIVIT（教皇様の青年への手紙4/2）
分かち合い、共同体と共に祈りと食事をする
ご聖体顕示、晩の祈り、夕食、食費は自由献金
糾明、サルヴェ・レジナ、終了
ＦＢ　「青年のための聖書の学び」
ＨＰ　http://www.concepcionistas.jp/
基本的に毎月第3日曜日が「聖書の学び」の日です。
連絡先　☎052-782-5850
名古屋市千種区園山町1-56
聖マリアの無原罪教育宣教修道会
担当者：シスター碇（いかり）政子

カルメル修道会 土曜静修 in 名古屋

―カルメル会士とともに過ごす聖母の土曜日―

日　時　5月4日㈷、6月1日、7月6日
いずれも土曜日。13：00～17：00。
講話・黙想・ミサ・教会の祈りなど。
場　所　カルメル修道会
日比野（本部）修道院
（カトリック日比野教会）
交　通　地下鉄名港線　日比野駅下車　徒歩約8分
その他　参加の事前連絡は不要。直接お越し下さい。
当日は千円程度のご寄付をお願いします。
ゆるしの秘跡にあずかることができます。
問合せ　男子跣足カルメル修道会　一日静修係
Fax 052-681-6445
e-mail: hibino@carmel.or.jp

今世紀にキリシタン史を学び直す

「2019年キリシタン史勉強会」

会場案内
名古屋会場　カトリック主税町記念聖堂
金 沢 会 場　カトリック金沢教会
勉強会の日時と講題
第5回　名古屋　5月11日（土）13：00
金　沢　5月19日（日）10：00ミサ後
「井上秀斉と主税町教会」栗木英次さん（小牧教会）
連　絡　申し込み不要、参加費無料（席上献金あり）。
参加ご希望の方は当日会場にお出かけ下さい。
講師の都合により、講題は変更になる場合があります。
主　催　カトリック名古屋教区殉教者顕彰委員会
☎052-936-8366

原典に忠実な生き生きとしたイエスの姿が学べる

本多哲郎神父による聖書の勉強会

テキスト：マルコによる福音書

２回シリーズ　５月13日（月）　13：00～16：00
10月14日（月・祝）　13：00～16：00
場　所　名古屋友の会2階ホール
（カトリック南山教会西側）
持ち物　聖書、筆記用具
本田神父が原典のギリシア語から直接日本語に翻訳された聖書を使って、本来の生き生きとしたイエスの姿を学びます。
会　費　各回300円（当日会場で集めます）
申込み　いちじくの会　☎090-1726-5627まで。

小牧ワイナリー　春の葡萄酒祭

“青空の下で幸せなひとときを”
期　日　5月3日（金・祝）・4日（土・祝）・5日（日・祝）
10：00～15：00　雨天決行
会　場　小牧ワイナリー
小牧市大字野口字大洞2325番2
内　容　2018年産ワイン販売
限定メニュー＆味自慢キッチンカー
家族みんなで参加できるイベント満載
皆様のご来場をお待ちしています。
問合せ　小牧ワイナリー　☎0568-79-3001
http://www.komakiwienery.com/

名古屋マック支援　春のバザー

日　時　5月12日（日）　10：15～13：30
会　場　カトリック五反城教会
名古屋市中村区二瀬町27
駐車場　当日駐車場はございません。
公共交通機関をご利用ください。
問合せ　名古屋マック後援会
春のバザー実行委員会
☎052-409-6565　河村
連　絡　献品が少なく困っています。
献品にご協力願います。
（例；衣類、靴、鞄、本、雑貨物、日用品、家具など）
連絡いただければ取りにお伺いします。5月8日まで。
連絡先は名古屋マック☎052-912-5508

浦上キリシタン 流配者のためのミサ

日　時　4月29日（月・祝）　14：00～
会　場　主税町記念聖堂　名古屋市東区主税町3-33
司　式　浅井太郎神父
主　催　名古屋教区顕彰委員会

神の愛の宣教者会の「マリア祭」のお知らせ

どなたでも、どうぞご参加ください。
日　時　5月31日（金）　15：00～17：30頃
場　所　神の愛の宣教者会名古屋修道院（あま市）
（名鉄バス「安松」下車、北西方向徒歩8分）
駐車場あり
内　容　○ミサ　武井アントニオ神父（サレジオ会）司式
○マリア像の輿を先頭に、ロザリオの祈りを唱えて近所を一周（雨天中止）
○ティータイム
問合せ　神の愛の宣教者会名古屋修道院
☎052-441-5141

第10回『あとから来る者のために』原発勉強会

どなたでも、気軽にご参加ください。
一緒に原発について考えましょう。
日　時　6月15日（土）13：30～15：00
場　所　カトリック布池教会信徒会館3F
名古屋市東区葵1丁目12-23
参加費　200円
主　催　次世代を考える会
問合せ　三本木國喜　☎0561-83-5360

カリタス福祉委員会から

「東日本大震災復興支援アンケート」ご協力のお願い

今年も東日本大震災から8回目の「3.11」の日を迎えました。カリタスジャパンが支援終了を決めた10年目まで残り2年を迎えるにあたり、これまでの名古屋教区の小教区をはじめ、修道院、学校、団体での支援活動状況や今後の取り組みについてのアンケート調査を行いました。

今後の名古屋教区における活動を考える上での資料、更には各小教区の社会委員会が問題提起できる1つの参考にもなるものと考え、6月末日までに回答をお願いしたアンケート調査票をお送りしています。

これらの趣旨をおくみ取りいただき、何卒ご協力をよろしくお願いいたします。尚、お手元に調査票が届いていない場合はお手数ながら下記へご連絡をお願いいたします。折り返しお送りさせていただきます。

教区カリタス福祉委員会
☎052-852-1426　Fax 052-852-1422

一粒会の集い〈東海地区〉

東海地区一粒会の集いを開催します。どうぞご参加ください。
日　時　6月30日（日）14：00～16：30
場　所　カトリック多治見教会
岐阜県多治見市緑ケ丘38
プログラム
第１部　講演
講師　和越 敏（わこし びん） 神父
（兵庫県西宮市カトリック仁川教会主任司祭）
2017年3月まで瀬戸教会主任司祭を務めていたビン神父です。
演題は4月下旬に決定します。
第２部　司教と共に捧げるミサ
問合せ　一粒会委員長　西村由美子
☎・Fax 0561-54-9754

〈信徒使徒職大会〉

テーマ　「ともに喜びをもって福音宣教を」
講　師　徳林寺の高岡和尚
臨床心理士の小瀬木尚美さん
日　時　6月8日（土）13：00～17：00
会　場　布池文化センター・コンコルディアホール
主　催　名古屋教区信徒使徒職協議会
問合せ　信徒協議会　☎052-933-3435

クリスマス献金のお礼とご報告

待降節よりお願いいたしました「クリスマス献金」は、次のようにご厚志が集計されましたので、支援先と共にご報告申し上げます。2018年度は教会・修道会・病院・幼稚園・個人の方々より36件815,031円をいただきました。ご協力、誠にありがとうございました。

支　援　先	支援金（単位・円）
福信館・炊き出し部	100,000
福信館建設	100,000
岐阜ダルク	50,000
岐阜ダルク・女性ハウス	50,000
名古屋ダルク	50,000
三河ダルク	50,000
NPO 法人セカンドハーベスト名古屋	300,000
RASA ジャパン　※(1)	50,000
愛知聖ルカセンター・国際こども学校を支援する会　※(2)	57,000
災害支援口	8,031
合　計	815,031

※(1)RASA ジャパンの活動
フィリピンの貧しい地域の学校へ給食支援をしています
(2)国際こども学校の活動
充分な修学の機会を与えられていない在日フィリピンのこどもたちの学校で南山大学生などもボランティア講師のお手伝いをしています
教区カリタス福祉委員会
〒466-0037　名古屋市昭和区恵方町2-15
電話 052-852-1426
Fax 052-852-1422

東日本大震災・災害支援金の報告

発災時よりカリタス福祉委員会へ振込まれた2018年度の支援金をご報告いたします。2018年度の支援金は下記3月の明細の通り送金させていただきました。暖かいご支援に心より感謝いたします!!

（振込手数料引去後の金額）

項目	2011.3.17 発災から 2019.2.28までの合計	単月明細 3/1～3/31	2011.3.17 発災から 2019.3.31までの合計
収入			
支援金総額（※）	30,133,356	715,713	30,849,069
収入合計	30,133,356	715,713	30,849,069
支出			
カリタスジャパンへ	11,335,367	470,000	11,805,367
さいたま教区・災害支援金へ	1,000,000	0	1,000,000
カリタス南相馬ベース支援	1,779,450	0	1,779,450
福島移住女性支援ネットワーク	490,000	0	490,000
いのちの光3.15フクシマ	0	110,000	110,000
福島被災地（狩浦神父活動）支援	100,000	200,000	300,000
大阪教会管区（大船渡・南三陸）支援	14,006,234	200,000	14,206,234
オールジャパン会議交通費	123,620	0	123,620
大船渡ベースへ車いす4台贈呈	123,200	0	123,200
大船渡ベースへピアノ贈呈	58,800	0	58,800
ベース支援ボランティア交通費補助	491,150	0	491,150
災害支援金口座へ	137,906	0	137,906
支出合計	29,645,727	980,000	30,625,727
単月・支援金残高	487,629		223,342
支援金残高合計			223,342

※3月度に支援金のご協力いただいた小教区（敬称略）
布池教会、金沢教会、春日井教会、鳴海教会

インドネシア地震災害支援金とご協力いただいた小教区（敬称略）
（3/1～3/31振込分）**2件　84,329円**（振込手数料引去後の金額）
（2018/10/3～2019/3/31）合計 44件 2,088,294円　（小教区名）多治見教会、美濃加茂教会

支援金振込先
口座番号　００８２０－５－１３７４５６
名義　カトリック名古屋教区カリタス福祉委員会
「東日本大震災・災害支援金」など 募金の意向先を記入願います。

ご連絡・問合せ先
カリタス福祉委員会
電話 052-852-1426
FAX 052-852-1422

―福音化の歩みのために―

（祭）＝祭日、（祝）＝祝日、（記）＝記念日

5月の教会暦

2日(木)　聖アタナシオ司教教会博士（記）
3日(金)(祝)聖フィリポ聖ヤコブ使徒（祝）
5日(日)(祝)**復活節第3主日**
12日(日)　**復活節第4主日　世界召命祈願の日**
14日(火)　聖マチア使徒（祝）
19日(日)　**復活節第5主日**
26日(日)　**復活節第6主日　世界広報の日**（献金）
31日(金)　聖母の訪問（祝）

6月の主な教会暦（主日・祭日など）

2日(日)　**主の昇天**（祭）
9日(日)　**聖霊降臨の主日**（祭）
16日(日)　**三位一体の主日**（祭）
23日(日)　**キリストの聖体**（祭）
24日(月)　**聖ペトロ使徒座への献金**
28日(金)　**洗礼者聖ヨハネの誕生**（祭）
29日(土)　**イエスのみ心**（祭）
30日(日)　**聖ペトロ聖パウロ使徒**（祭）
　　年間第13主日

教区行事予定　（＊＝松浦司教）

5月

2日(木)～4日(土)　名古屋教区公式巡礼・津和野＊
8日(水)　難民移住移動者委員会
11日(土)　宣司評運営委員会＊／信徒協役員会／共助連絡会／殉教者顕彰委員会・キリシタン史勉強会（主税町）
12日(日)　城東B会議／三河B会議
14日(火)　樹の会
15日(水)　カリタス福祉委員会
16日(木)　月集＊
18日(土)　正義と平和学習会／樹の会総会／レジオ名古屋クリア城北B会議／北陸B会議／インターナショナルミサ・こどもの集い＊／一粒会委員総会
21日(火)～22日(水)　日本カトリック女性連盟名古屋総会
25日(土)　典礼委員会
26日(日)　富山教会堅信式＊／北陸ブロック会議＊／愛岐B兄弟の集い／教区中高生会
27日(月)　教区顧問会＊
31日(金)　教区法人評議員会＊

6月

2日(日)　宣教司牧評議会＊
8日(土)　信徒協総会＊
9日(日)　城北ブロック堅信式＊／教区中高生会
11日(火)　樹の会
13日(木)　松浦司教着座記念日／教区顧問会＊
15日(土)　信徒協役員会／共助連絡会総会／レジオ名古屋クリア黙想会
16日(日)　大垣教会堅信式＊／愛岐B会議
18日(火)　カトリック看護協会例会
20日(木)　司祭評議会
23日(日)　安城教会堅信式＊
29日(土)　濃尾B会議／典礼委員会
30日(日)　多治見教会堅信式＊／一粒会の集い（東海地区）＊

教区行事以外の松浦司教予定

5月

8日(水)　難民移住移動者委員会
9日(木)　常任司教委員会
21日(火)～22日(水)　日カ連全国総会
28日(火)　南山学園評議員会

6月

5日(水)　子どもと女性の権利擁護のためのデスク、難民移住移動者委員会
6日(木)　常任司教委員会、日本難民移住移動者委員会
17日(月)　臨時常任司教委員会
18日(火)～20日(木)　大阪教会管区司牧者研修会

告知板

福信館便り　☎052(935)7180

◇**5月の炊き出し**　木　2日布池、9日東海・南山・樹の会、16日聖霊・南山、23日城北橋、30日一宮　金　3日喜望の会、10日布池、17日恵方町・AJU、24日南山、31日江南

▼**GW期間中のお休みの予定**

○名古屋教区センター
4月27日(土)～5月6日(月)の10日間はお休み。

○聖パウロ書院
4月29日(月)～5月4日(土)はお休み。

▼各務原教会は、これまで岐阜教会の巡回教会でしたが、今後は、独立の小教区となります。

―・―・―・―・―

小教区及び２０１９年度第二次人事異動

（3月7日発表）

第二次人事異動（聖心布教会の第二次人事異動は6月23日から）

○城北ブロック
城北橋教会　主任司祭
テットホール　ベルナルドゥス（福井教会）
協力司祭　ミッション　ジョイ
みこころセンター館長
ミッション　ジョイ

○濃尾ブロック
江南教会　主任司祭
スサント　プリヨ（城北橋教会）
各務原教会　主任司祭
グラハム　ジョン（江南教会）

○北陸ブロック
福井教会　主任司祭
ハンフリーズ　クリストファー（みこころセンター）

共同宣教司牧チーム（復活の主日の翌日4月22日から）

○北陸ブロック
富山地区（富山、高岡、小矢部、魚津）
共同宣教司牧・司祭チーム
長谷川潤（コーディネーター）フランシスコ会
小川満（フランシスコ会）、片岡義博（教区）
協力司祭　田中英次（フランシスコ会）
守山教会
共同宣教司牧・司祭・助祭チーム
平田政信（コーディネーター）、早川和彦助祭
小牧教会　主任司祭
平田政信（従来通り）

確認事項　既報の第一次人事異動日は、神言会は復活祭後、教区司祭は6月30日からです。

小教区及び２０１９年度第三次人事異動

（4月15日発表）

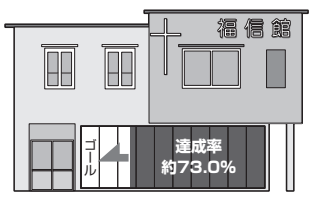
○北陸ブロック
金沢教会　助任司祭
九里　彰（カルメル会・金沢共同体責任者）（京都宇治修道院より）

○城南ブロック
日比野教会・八熊教会　主任司祭
古川利夫（カルメル修道会日本地区本部付きより）

○教区外へ異動
ウイルフリドス・ペトルス・ソバ
上野毛修道院（東京）へ（日比野・八熊教会主任司祭より）
今泉　健　上野毛修道院（東京）へ（金沢教会助任司祭より）

建設費の返済に協力を

597件 29,223,990円
目標額 40,000,000円（3月末）



郵便振替　00810－5－50605
加入者名　カトリック名古屋教区
通信欄に「福信館建設」と必ずご記入ください。

日本カトリック女性団体連盟
第45回名古屋総会
記念講演と派遣ミサ

「証し人」になろう！
～キリストの愛を届けるために～

講　師　ミカエル松浦悟郎司教

日　時　5月22日（水）
受付　8：30～
講演　9：30～10：45
ミサ　11：00～12：30

場　所　カトリック布池教会大聖堂

どなたでもご参加いただけます。

主　催　日本カトリック女性団体連盟
実行委員会　名古屋教区カトリック女性の会（樹の会）
連絡先　樹の会事務局　平尾☎090-5107-0644

女子パウロ会　名古屋修道院での集い
「ロザリオの祈り」

5月12日（日）、6月9日（日）14：00から始めます。
場所・問合せ
聖パウロ女子修道会（聖パウロ書院）
名古屋市東区葵1-13-2　☎052-936-4443

第84回　聖霊病院「春の聖書展」
テーマ「信仰をつなぐ心」

お一人でも多くの皆様のご来場をお待ちしています。

日　時　5月20日（月）～22日（水）
プログラム
5月20日17：15～聖書の集い
場所　2号棟4階第2会議室
講師　神言会神学生　マリオ・フランシスコ・チェメ・オワ・ポアさん
5月22日15：30～聖書展コンサート
演奏　Grace of the Holy Spirit によるコンサート
場所　聖霊ホール
3号棟1・2階　展示　信仰をつなぐ心
3号棟2階エレベーター前　聖霊病院華道部作品
玄関ホール販売　キリスト教書籍、絵本、カード、手作りクッキー
交　通　地下鉄鶴舞線「いりなか」駅1番出口徒歩2分
問合せ　社会福祉法人聖霊会カトリック社会事業室
名古屋市昭和区川名山町56
☎052-832-1181　担当シスター　村木

主にささげる24時間～聖体礼拝

主税町記念聖堂では月に2回、聖体礼拝が行われています。開始時と終了時にミサが行われます。どうぞご参列ください。

日　時　毎月第2・第4木曜日　木曜日19：00～金曜日19：00
場　所　主税町記念聖堂　名古屋市東区主税町3-33
主　催　カトリック名古屋教区
問合せ　名古屋教区本部事務局　☎052-935-2223
責任者　平田政信神父　携帯電話090-1623-1170

新刊書案内

主は「たとえ」で語られた

サンパウロ　1,296円（税込）

聖書の中でイエスが語られる有名な「たとえ」話に関する解説が、イエスの思いに触れ、味わうことができるように簡潔にまとめられている。好評発売中のVol.1に続くVo.2は、ルカによる福音書とマタイによる福音書からの「たとえ」話が述べられている。

〈放蕩息子〉〈金持ちとラザロ〉〈迷い出た羊〉など、キリスト教徒だけではなく、読者の誰もが胸をうたれ、自分の生き方をふり返って見つめ直し、良き人生へと導かれる話である。分かりやすい易しい解説と滋味あるイラストもいっしょに味わいたい。